

開拓記念碑と「愛牛の碑」

秋田県由利本荘市鳥海町

秋田県南西部に位置する由利本荘市は、日本海に面し、東南に鳥海山北部山麓まで広がっている。05年、本荘市と由利郡7町が合併し、発足。県の10分の1を占める広大な面積となった。農業は、基幹産業の稲作のほか、畜産が営まれている。

戦後、計21地区の開拓地に海外引揚者や地元二・三男らが入植し、田畑を開墾した。最も内陸で、山形県に接する鳥海町（旧・由利郡鳥海村）では、鳥海山麓の豪雪地帯3地区で開拓が行われた。47（昭和22）年、川内上原に8戸、翌年、^{うぐいす}川に2戸と^{きげなべ}提鍋に4戸が入植した。

このうち、川内上原（川内村開拓地）は、標高260の波状形の台地であった。土壌は鳥海山火山泥流による埴土で、下層は重泥で強酸性だった。営農は、入植当初の食糧難から雑穀・イモ類中心の栽培がしばらく続いた。54年に地区内道路が整備され、一部開田化を開始。さらに57年、村が酪農振興地域に指定され、乳牛の導入が活発化し、水田・酪農主体の営農に移行した。

同地区の採草地を背に、2基の石碑が並んで建っている。左側は「開拓記念碑」で、旧・川内村開拓農協が76年に建立したもの（写真）。裏面に開拓者8戸の夫婦氏名・年齢などが刻まれている。

右側は「愛牛の碑」で、鳥海村酪農協会が77年に建立したもの。裏面には開拓の歩みと、一般の生産者も含め酪農家9戸の氏名が刻まれている。碑文の末尾には、「幾多の乳牛の犠牲の上に定着を見たのであり 酪農二十周年を記念し物故の魂を慰めると共に 本日を期して鳥海村酪農記念日として永遠に之を伝誦するものである」と記されている。

○ 川内上原

地区概要

所在地 由利本荘市鳥海町

組合名 旧川内村開拓農業協同組合

建立年月日 昭和五十一年五月

入植年度 昭和二十二年度

入植戸数 八戸

地区面積 56.7ha

耕地面積 29.1ha（水田8.7ha、畑20.2ha、
樹園地0.2ha）

開拓記念碑 揮毫者 後藤竹清（本荘市）

裏面刻

昭和二十二年五月入植

川内村開拓農業協同組合設立

昭和四十八年八月組合解散
昭和五十一年五月建之
竹清書

開拓者8名の夫婦氏名



開拓記念碑の隣に建つ「愛牛の碑」